

経営比較分析表（令和6年度決算）

北海道 札幌市

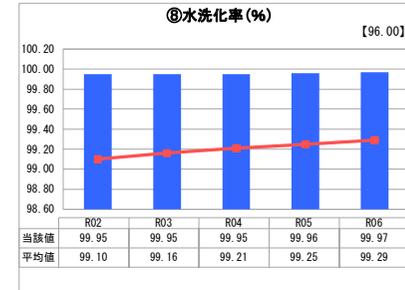
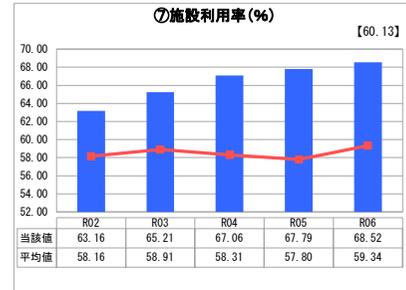
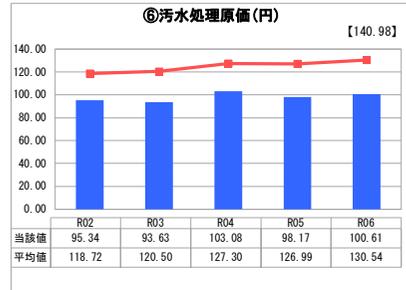
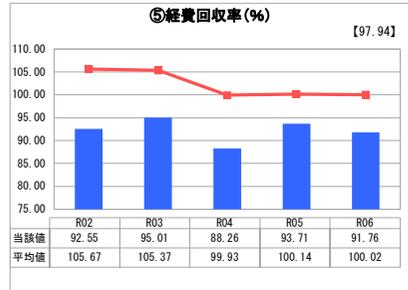
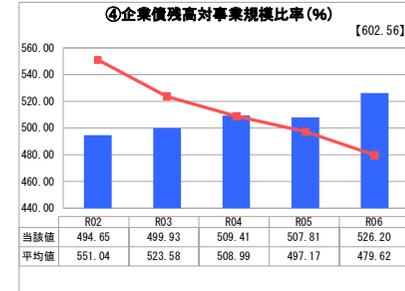
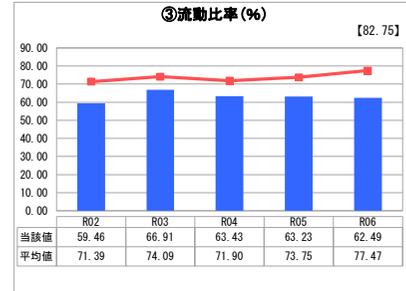
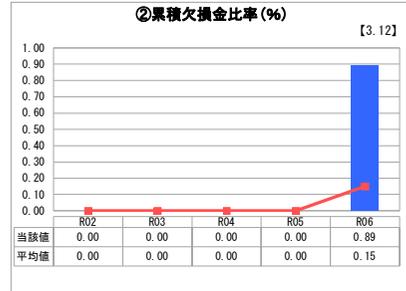
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	公共下水道	政令市等	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	55.15	99.34	71.48	1,397

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
1,955,678	1,121.26	1,744.18
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
1,940,309	245.72	7,896.42

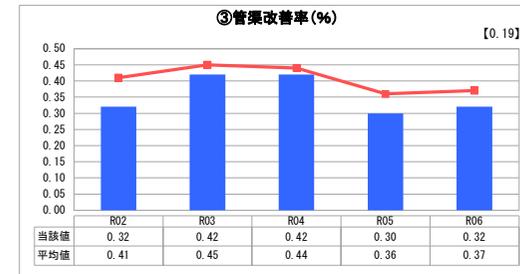
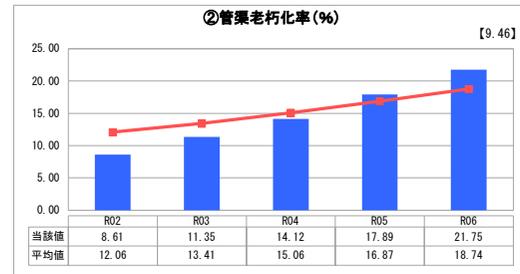
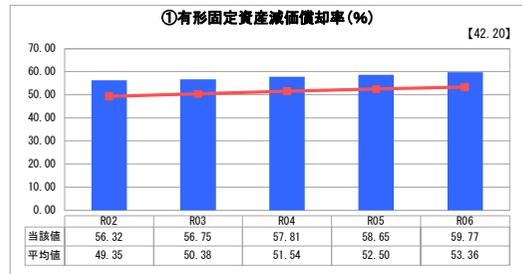
グラフ凡例

- 当該団体値(当該値)
- 類似団体平均値(平均値)
- 令和6年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

近年、人口減少や節水意識の高まりにより、下水道使用料はおおむね横ばいの状況である。一方で、下水道施設の老朽化の進行や物価高騰のあおりを受けて、①経常収支比率は100%を下回り、当年度の純損失を補填する利益剰余金がなかったことから、②累積欠損金比率は0.89%となった。また、⑤経費回収率は依然100%を下回っている状況であり、汚水処理費が増加したことで令和6年度は減少した。これらの経営指標を改善させるには、計画的な修繕と施設の長寿命化を図り、経営の健全性・効率性に努めていく必要がある。なお、③流動比率は依然100%を下回りほぼ横ばいで推移している。流動負債の半分以上は翌年度に償還する企業債であり、この企業債を流動負債から除くと流動比率は約137%となり、前年度の138%と比較すると、支払能力はほぼ変わっていないといえる。

2. 老朽化の状況について

①の有形固定資産減価償却率は、類似団体平均値と比べて高くなってきているが、これは下水道施設（特に機械・電気設備）の延命化を図ることによるものである。②の管渠老朽化率は、類似団体平均値と比べて高くなってきているが、これは昭和40年代から50年代にかけて集中的に下水道の整備を進めたことで、そのときに整備した管渠が標準耐用年数を迎えていることによるものであり、管渠老朽化率は今後更に高くなっていく見込みである。③の管渠改善率は、類似団体平均値と比べて低くなってきているが、管渠の老朽化に対しては、今後も可能な限り延命化を図り、効率のかつ計画的に改築等を進めていく必要がある。

全体総括

本市下水道事業は、令和3年度から7年度を計画期間とする「札幌市下水道事業中期経営プラン2025」に基づき、事業を計画的に進めるとともに、安定した経営に努めてきた。しかし、近年の下水道施設の老朽化や物価高騰などにより、財政収支は厳しさを増しており、経営の健全性・効率性などの指標は悪化してきている。このような状況を受けて、本市下水道事業は令和8年10月に下水道使用料を改定する予定である。この改定により増収を図り、経営指標は徐々に改善されていく見込みである。また、令和8年度から16年度までの9年間の事業計画と財政計画を定めた「札幌市下水道ビジョン」の策定も現在進めており、今後はこの計画に基づき、事業を計画的に進めるとともに、持続可能な財政運営を行っていく。

※ 「経常収支比率」、「累積欠損金比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のみ類似団体平均値及び全国平均を算出しています。